

他者との関わりの中で考える命の教育

三条・栄中央小学校

1 はじめに

栄中学校区は、今年度三条市防災教育モデル実践校の指定を受け、当校では、9月13日に市内教職員、当校保護者を対象とした全学級授業公開を行った。実践校としての取組を通して、「防災教育」の在り方について職員と語り合い、同じベクトルで進めることができた。

2 防災教育の在り方を考えた公開授業

三条市防災教育研修会のねらいは、次の2点である。

その1. 新潟県防災教育プログラムに基づく防災教育授業の実践、充実により「自ら命を守る力」を育成する。

その2. 保護者の参観により、家庭への啓発活動の一助とする。

まず、公開授業で大切にすることは、ねらいその1の「新潟県防災教育プログラムに基づく防災教育授業」ということである。学年、小中のつながりといった学びの履歴を重視して、自校化は慎重に行った。しかし、立地条件を考慮しての指導計画の変更や三条市最新ハザードマップ等を活用した指導案やワークシートの作成は積極的に行った。

また、ねらいその1の「自ら命を守る力」では、「自分の身を守るために、そのときできる最善の行動をとる」ことを強調して指導した。訓練での想定通りの避難で安心しない。ここまで来れば大丈夫ではなく、もっと安全な場所に避難する率先避難者を育てることを目指した。

ねらいその2の「家庭への啓発活動」では、「授業の延長上にある命の教育」を意識した。今回の授業公開は、学習参観に行ったことに大きな意義がある。児童生徒が学んだことが、家族の共通理解につながらないとその学びは生きてこない。「私は避難所に来たのに、母は家に迎えに行ってしまった。」では、悲劇を呼んでしまう。あなたの命は、自分だけのものではないことを再確認しなければならない。他者との関わりの中で考え、家族での話し合いにつながる授業を公開した。各授業のまとめでは、「今日学んだことを家族で話し合おう」とし、授業の先にある命の教育の取組につなげた。ある保護者からは、「参観や講演会、家族会議を通して、災害時の避難について真剣に考え、家族の絆が深まった。」という感想をいただいた。

3 終わりに

防災教育は、何よりも大切な児童生徒の命を守る教育である。校長として、「ここまで大丈夫」ではなく、「そのときできる最善を尽くせる責任者」でありたい。